

(研修概要) 様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成 ～対話を中心にすえた、認め合い深め合う学習指導の工夫～

周南市立三丘小学校

1 はじめに

本校は、周南市東部、清流島田川の側に位置し、山や田畑に囲まれた自然豊かな学校である。全校児童は、44名（1・2年生…6名ずつの単式学級、3・4年生…16名の複式学級、5・6年生…16名の複式学級）である。学校目標に「ふるさとに学び、夢の実現をめざす三丘っ子の育成～学校・家庭・地域がつながり、活力ある教育の推進～」を掲げて、特に、農業（芋、麦、ナス、米）、伝統（人形浄瑠璃、論語朗唱）、福祉（高齢者福祉施設訪問、防災学習）に関する教育活動において、地域と連携した特色ある教育活動を展開している。

2 研究主題

本校の児童は、人前で発表したり発言したりする機会に恵まれているため、積極的に発表する児童が多いこと、上学年が下学年を気遣い、優しくお世話をすること、学習に対して前向きに取り組む児童が多いことなどの良さがある。しかし、なかなか自分の意見がもてなかったり書けなかったりする児童がいること、学力の個人差がとても大きいこと、同じ人間関係の中で馴れ合いが生まれ、言葉が足りなくても意図をくみとってもらえるため、意見を伝えたり説明したりする力が不十分なことに課題が見られる。

そこで、研究主題を「様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成～対話を中心にすえた、認め合い深め合う学習指導の工夫～」とし、対話を通して深め合う学習指導を中心課題として、研修を進めている。

研究仮説を次のように設定した。

(研修仮説)

少人数の良さを生かし、少人数であるがゆえに生じる課題に対応しながら、ICTの効果的な活用、課題設定や学習形態・まとめや振り返りの工夫を行うことで、様々なつながりから、自分の考えを深めることができる児童が育つのではないかと。

「様々なつながり」とは、次のようなことが挙げられる。

- | | |
|----------|---|
| (1) つなげる | (つかむ) <u>既習事項や生活経験とつなげた課題設定の充実</u>
(主体的な学び) |
| (2) つながる | <u>多様な他者との学び合い</u> による対話の充実 (対話的な学び)
(考える) ①一人学び…教材・事象 (もの・こと) とつながる
(深める) ②共学び…(ひと) とつながる <u>対話がつながる</u> |
| (3) つなぐ | (まとめる) 学びを再考し、自らの学びを確かなものにする場の充実
(ふりかえる) <u>次時の学習や生活につなごう</u> とする場の充実
(深い学び) |

3 研究の内容

- (1) 互いの考えを認め、深める授業づくり
 - ①既習事項や生活経験とつなげた課題設定
 - ②1往復半のやりとりのある対話学習
 - ③めあてと整合性のあるまとめの充実
 - ④振り返り（カード）の充実
- (2) 授業研究による授業改善
- (3) リーダー学習を意識した授業づくり
- (4) スキルアップタイムによる基礎学力の向上
 - ①タブレット活用学習
 - ②基礎基本・応用発展問題
 - ③読書・読み聞かせ
 - ④フリートーク
- (5) 話し合う場、発表する場の充実
 - ①学級活動・委員会によるイベント活動・たてわり班活動の充実
 - ②地域の特性を生かした学習

4 具体的な取組

- (1) 互いの考えを認め、深める授業づくり

①既習事項や生活経験とつなげた課題設定

児童が課題に対して興味や関心をもち、主体的に課題解決に取り組み、学びを深めていくことができるように、授業の導入における「課題設定」について、学習内容を既習事項や生活経験とつないだり、新たな教材や事象の提示方法を工夫したりするとともに、児童が考えたくなったり、話し合いたくなったりするような発問の工夫をした。

②1往復半のやりとりのある対話学習

互いの考えを出し合い学び合う対話の中で、ICTを効果的に活用することで、自分の考えと他者の考えを共有・比較・分析しやすくし、対話が重なり、多様な考え方ができるようにした。



③めあてと整合性のあるまとめの充実

授業での学びを確かなものにするために、自らの学びを価値つけて自覚したり、共学びによって生まれた新たな考えを整理してまとめたりするなどの場面を充実させた。まとめの書かせ方については、穴埋め、書き出し指定、キーワード指定、フリー記述等、児童自身の文章で書けるようにすることを目標に、段階を追って進めている。

④振り返り（カード）の充実

授業終末の振り返りについては、視点を明確に与えるようにした。また、記号やイラストによる三段階自己評価や文章記述ができるようなカードの工夫にも取り組んだ。

- (2) 授業研究による授業改善

授業研究については、国語科に絞り、上記の課題を視野に入れた授業の提案を行った。その際、以下の3つの視点を踏まえた授業づくりを行うものとした。

- | |
|-------------------------|
| 視点① 対話の必然性を生み出す課題設定 |
| 視点② ICTを活用した深め合う対話 |
| 視点③ 自己の学びを再構築するまとめや振り返り |

《3年「調べて書こう、わたしのレポート」4年「みんなで作ろう」》

視点① 対話の必然性を生み出す課題設定

3・4年生は、レポートや新聞の特長を見付け、学年ごとに話し合っ、学習計画を

たてた。学習計画を教室内に掲示し、学習の記録を付け加えていくことで、次に何を考えていけばよいか、子ども達は見通しをもって取り組むことができた。子ども達一人一人が学習意欲を高め、主体的に学習する姿が多く見られた。



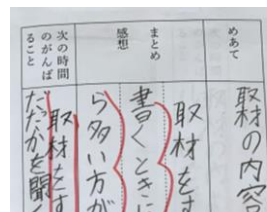
視点② ICTを活用した深め合う対話



レポートや新聞の記事に取り上げたい物を写真に撮って選択をし、選んだ物を友達に紹介をしたり、前時の板書や資料を提示しながら話し合いを行ったりすることができたので、個、ペア、グループ活動をスムーズに行うことができた。また、大型DPへ、児童の考えや個々の資料を提示して発表をすることで、みんなで個やグループの意見を共有し、意見や感想を述べ合うこともできた。

視点③ 自己の学びを再構築するまとめや振り返り

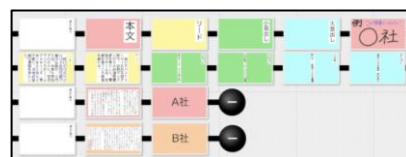
毎時間の終末に同じ形式の振り返りカードを使った。「本時のめあて」「まとめ・感想」「次時にがんばること」を記入した。学習計画を立てて掲示したことで見通しをもつことができ、児童は本時とのつながりを考えて次時にがんばりたいことを記入することができた。



《5年「新聞記事を読み比べよう」6年「インターネットの投稿を読み比べよう」》

視点① 対話の必然性を生み出す課題設定

5年はミライシードのオクリンク、6年はミライシードのムーブノートを児童一人ひとりが使用した。5年は、同じ内容を扱った2つの新聞記事の本文、リード、見出しをバラバラにしたものを組み合わせる活動を仕組むことで、「つながりを見付けて正しく組み合わせよう」という課題意識をもたせた。6年は、11の投稿を「適度な運動派」と「厳しい練習派」の2つの立場に分ける活動を仕組み、話し合いの視点を明確にすることで、対話を生み出した。



視点② ICTを活用した深め合う対話



5年は、並べ替えたカードを提出ボックスに送り、全員で共有し合いながら話し合いをした。6年は、一つひとつの投稿をカードに表示し、意見、主張は赤色、理由と事例は青色で色分けしながら線を引き、グループ活動では、そのカードを見せ合うことで、視覚的にも共通理解ができ、自分の意見と比べながら、内容を整理することができた。

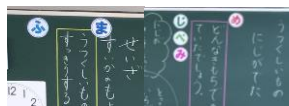
視点③ 自己の学びを再構築するまとめや振り返り

5年は、単元の最後に、①新聞記事の読み比べをした感想、②新聞記事について学んだこと、③学習を通して学んだこと、という3つの観点でふり返しを行うことで、学んだことを再構築し、これから新聞を読むときに、学習したことを生かしていきたいという思いをもてるようにした。6年は、単元の最後に「三丘小6年・共感を生む投稿八条」を作った。説得の工夫や投稿の続きに参加した学習を踏まえ、情報モラルにあたる点についても考えることができた。

(3) リーダー学習を意識した授業づくり



複式学習を成立させ、児童が学習の見通しをもって、自分たちで授業を進めることができるようにするために、まずは、板書の工夫を行った。高学年では、「めあて」「一人学び」「共学び」など書かれたカード、低学年では「め（めあて）」「じ（じぶんで）」「み（みんなで）」と書かれたカードを使用している。また、様々な学習場面において、児童主体で話をつないで、話し合いをするようにしている。



(4) スキルアップタイムによる基礎学力の向上

毎週金曜日のフリートークは、今年度の研究の大きな柱となっている「対話力」を鍛えるために始めた新しい取組である。リーダーが進行をしながら、テーマについてペア、グループ、全体など、様々な形態で取り組んでいる。また、学年にこだわらず異学年でのフリートークも行っている。



(5) 話し合う場、発表する場の充実

児童の主体的な活動の一つに、委員会によるイベントがある。各委員会の5・6年生が話し合って様々なアイデアを出し、全校児童を対象にイベントを開催している。また、生活科や総合的な学習の時間で学んだこと（低学年の論語の朗唱、中学年のナス栽培・三丘の歴史、高学年の人形浄瑠璃・防災学習など）を11月に開催した「三丘っ子フェスタ」で発表した。

5 成果と課題

(成果)

- ・フリートークで理由を付けながら意見を交流させたり、他の児童の意見を引き出す質問をしたりなどのやりとりが、授業中の対話の中でも見られるようになってきた。
- ・まとめや振り返りの時には、自分が学んだことを文章化できるようになってきた。
- ・リーダーによる、授業や話し合いの進行に上達が見られる。

(課題)

- ・様々なことに取り組む上で、学習したことを早く習得できる児童は、どんどん力を付けているが、その一方で学力差が大きくなってきている。
- ・やりとりを重ね深めていく対話力が不十分である。
- ・対話をしながら考えを深めていく上で、考えや意見の変容を文章に書いたりまとめたりする力が不十分である。

6 おわりに

昨年度の一人一台端末の導入より、ICT機器活用の可能性を探求しながら、複式授業を成立させ、一人一人に合った学びを提供するための学習指導の工夫について、職員一丸となって研修を進めてきた。中でも、少人数ならではの課題である、対話の活性化、深め合う対話に重点を置きながら授業改善に努めてきた。様々なアプローチを教員が見出し、共有することで、『様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成』の実現に迫ることができた。今後も、三丘小の良さや強みを生かしながら、学校、保護者、地域が一体となって教育活動を展開していきたい。